

第54回公的扶助研究全国セミナー(オンライン開催)

WORK FOR PEACE, HEALTH AND LIFE

開催要綱

2022年11月

3(祝).5(土).6(日)

一般	10,000 円
会員	5,000 円
学生	5,000 円



『健康で文化的な最低限度の生活』 ©柏木ハルコ/小学館(週刊ビッグコミックスピリッツ連載中)

《主催》 全国公的扶助研究会

《後援》 日本社会福祉士会 ・ 日本医療ソーシャルワーカー協会
日本精神保健福祉士協会 ・ 日本ソーシャルワーカー協会



申込はコチラから

引き続きコロナ禍の下、生活保護を活用して支援の充実を！

生活保護ケースワーカーをはじめとする全国の福祉関係者のみなさん。コロナ第7波という状況の下、今年の全国セミナーは、昨年に引き続きオンラインで開催いたします。

現在、世界はロシアによるウクライナへの侵攻によって平和が脅かされる深刻な危機にあります。ニュースでは、ウクライナ市民の悲惨な状況が連日のように報道されていますが、例えばウクライナでも支援を受けているはずの認知症高齢者や障害者はまったくといってよいほど報道がありません。彼らがどのような状態にあるのか想像すると胸が痛みます。同時に私たちが携わっている福祉の仕事は平和でなければ成り立たないものであることをつくづくと感じざるを得ません。

さて、こうした不安定な世界情勢の下で、日本は急激な円安もあって、物価が急上昇しています(生活必需品の値上げ幅は4.7%・2022年5月)。市民生活はコロナ禍の疲弊から回復できていない一方で、賃金は上がらず、年金は下がり、生活保護基準は下がったままとなっている下で、急激な物価高に見舞われています。生活保護世帯の生活は困難さを増していることは確実です。生活福祉資金(特例貸付)を利用した方は、2023年1月から返済が始まります(一部返済免除)。償還に当たっては生活保護の紹介も含めて丁寧な相談が必要です。さしあたり、生活保護を最大限活用して、生活困窮者の生活再建をめざすことが喫緊の課題ではないでしょうか。

今回のセミナーでは、生活保護の政策動向や実施要領の活用法、生活保護裁判、また、被保護者健康管理支援事業の生かし方、ひきこもり、ヤングケアラーへの支援や、初級学校など、様々なニーズに応じて昨年を上回る17の企画・分科会を用意しています。いずれも、現場の関心に噛み合ったすぐに役立つ分科会や、生活保護の最新の動きを学べる講座です。ともに学びましょう！

2022年8月

全国公的扶助研究会会長 吉永純

全体スケジュール

時間が重複する分科会は選択式となります
すべての企画はアーカイブ配信します

	10:00-12:00	13:00-15:00	15:30-17:30
11月3日	分科会1 生活保護手帳	記念企画(全体会) 女性が語る女性の貧困	分科会3 生活福祉資金
	分科会2 子どもと生活保護		分科会4 ヤングケアラー支援
11月5日	分科会5 生活保護裁判	分科会7 健康管理支援	分科会9 精神・知的障害者への支援
	分科会6 依存症と地域支援	分科会8 ※1年未満CW限定 初級学校	分科会10 扶養・自動車
11月6日	分科会11 貧困と自殺問題	分科会13 福祉事務所	分科会15 就労支援
	分科会12 ※現役CW限定,先着50名 ワークショップ	分科会14 ひきこもり支援	分科会16 自治体間格差

11月3日（祝）

【分科会1】 生活保護手帳 10:00-12:00

zoom
ウェビナー

「生活保護手帳（保護の実施要領）の読み方・使い方」

～制度を「生活支援」にどう活かすか～

仕事の基本となるといわれる生活保護手帳ですが、900頁を超えどこに何が書いてあるのやら…。京都市で長く仕事に携わってきた元SV二人が、生活保護の基本的な考え方や、保護手帳（実施要領）の使い方について参加者とともに考えます。「利用者にこんな応援がしたい」と思ったときの手掛かりに使える網羅的な資料を配布予定です。

（参考本）全国公的扶助研究会監修、吉永純編著『Q&A 生活保護手帳の読み方・使い方【第2版】』明石書店

講師：森 宣秋さん（京都市保健福祉局生活福祉課） 助言者：高階 康裕さん（京都市北福祉事務所）

【分科会2】 子どもと生活保護 10:00-12:00

zoom
ウェビナー

「生活保護世帯の子どもに向き合う」

～子どもを権利の主体として捉える～

生活保護世帯の子どものことを捉える時に、進学やアルバイト収入等、世帯員として保護の実施に必要な範囲になっていませんか？子どもを権利の主体として捉えることは、子どもを取り巻く様々な問題や課題を浮き彫りにします。生活保護世帯でも、子どもを切り口に世帯を見ることで、今までとは違った支援の視点が得られます。本分科会では、参加された方のケースワークの幅が広がるお手伝いをできるようにしたいと思っています。

【記念企画（全体会）】 13:00-15:00

zoom
ウェビナー

「女性が語る女性の貧困」

～福祉事務所への期待を込めて～

コロナ禍は「She cession（女性不況）」と呼ばれています。突然の休校により休職を余儀なくされ、そして休業、解雇。さらに女性へのDVや自死の急増…。コロナ禍は、女性が担っていた不安定で低収入の仕事を直撃し、女性と子どもに重大なダメージを与えています。こうした女性への支援を最前線で担ってきた支援者から今回のコロナ禍で明らかになった女性の貧困と福祉事務所への期待をお話いただきます。

講演：雨宮 処凛さん（作家、反貧困ネットワーク・世話人）

報告：松元 ちえさん（ジャーナリスト）

聞き手：吉永 純さん（花園大学）

【分科会3】 生活福祉資金 15:30-17:30

zoom
ウェビナー

「生活福祉資金・特例貸付で明らかになった貧困と今後の課題」

コロナ禍における特例貸付は約329万件、約1兆4,000億円に達しています（2022年7月）。貸付の意義と、明らかになった日本の貧困とコロナ対策の問題点、相談時の悩みや課題、特に来年から始まる返済の相談、福祉事務所との連携、生活保護へのつなぎをはじめ必要な方策等を考えます。

講師：角崎 洋平さん（日本福祉大学） 荻田 藍子さん（兵庫県社会福祉協議会）

【分科会4】 ヤングケアラー支援 15:30-17:30

zoom
ウェビナー

「生活保護世帯の中のヤングケアラーに私たちは目を向けられているか」

～ケースワークをともに考える～

家族の世話、家事に追われ、教育や社会参加の機会がないまま成長を止めざるを得なかった人たちの存在がクローズアップされています。神戸市は全国に先駆けて自治体の責務として取り組みを始めました。私たちは保護世帯にいる子どもや若者のケアラー（ヤングケアラー）と呼ばれる人たちに向き合っているでしょうか？神戸市のこの2年間の取組とソーシャルワーカーの支援例などを元に、皆さんと共に必要な支援について考えていきます。

講師：上田智也さん（神戸市福祉局政策課こども・若者ケアラー相談・支援窓口）

報告者：神戸市の福祉事務所から

11月5日(土)

【分科会5】 生活保護裁判 10:00-12:00

zoom
ウェビナー

「この1年の生活保護裁判・審査請求」～生活保護裁判と弁護士としての思い～

2013年からの過去最大の生活扶助基準の引き下げを争っている「いのちのとりで裁判」での熊本地裁、東京地裁での勝訴など、この1年間の生活保護裁判や審査請求を解説します。また、弁護士がなぜ生活保護裁判に取り組むのか、その思いを元弁護士で現在は貧困や生活保護の研究者でもある高木佳世子さんが語ります。

講師：高木 佳世子さん(筑紫女学園大学) 吉永 純さん(花園大学)

【分科会6】 依存症(アディクション)と地域支援 10:00-12:00

zoom
ウェビナー

「生活保護と依存症、切っても切れない連携支援！」～みんなで楽しくゆるくつながろう！～

「支援しているのになんで悪化するの？」皆さんはそんな経験ありませんか？
依存症の人も支援者もみんな明るく楽しくユル～くつながって、「社会の中で生きる」ことのできる地域づくりを紹介します。さいがた医療センターのアディクション診療部門「Sai-DAT(サイダット)」、地域の回復施設「り・ぼん」、そして福祉事務所のコラボレーション。「日本酒王国新潟県」の取り組みに注目ください。

講師・報告者：佐久間寛之さん(国立病院機構さいがた医療センター)
報告者：斉藤純子さん(一般社団法人り・ぼん) 高野正秀さん(南魚沼市福祉事務所) Sai-DAT スタッフ

【分科会7】 健康管理支援 13:00-15:00

zoom
ウェビナー

「被保護者健康管理支援事業を活用して支援の充実を」

2021年から始まった健康管理支援事業についてデータに基づきその活用を考えます。これまでの調査で利用者の孤立が頻回受診や慢性疾患に影響する、ひとり親の子どもは慢性疾患にかかりやすい、生活保護費の減少が医療扶助費の増加をもたらす、ことなどがわかっています。事業を利用者の健康回復のために活かすため、職場にある“宝(データ)”をうまく活用していきませんか。

講師：西岡 大輔さん(大阪医科薬科大学)

【分科会8】 初級学校 13:00-15:00

zoom
ミーティング

「**限定** 生活保護ケースワーカー入門編」～ケースワークをともに考える～

初級学校は経験年数1年未満の生活保護ケースワーカーを対象とした講座です。
生活保護のケースワーカーを希望していなかった人や意図せずになった人も日々の煩雑な事務や支援の難しさに苦労していることかと思えます。本講座では、生活保護制度の正しい理解やケースワークの大切さを学ぶとともに、全国のケースワーカーとの出会いを通して学びや悩み、喜びを共有できればと考えています。

【分科会9】 精神・知的障害者への支援 15:30-17:30

zoom
ウェビナー

「精神・知的障害者へのよりよい支援」～理解し、支援する力の向上を目指して～

コロナ禍の中、生活全般で大きく影響を受けている精神・知的障害を持つ人々。訪問、面談の機会が少なくなり、支援者との距離が開き、相互理解が困難になってきています。共生社会の理念をもとにして障害を持つ人が地域で生きていくためには、生活保護制度、生活保護ケースワーカーは重要です。よりよい支援のために正しく理解し、支援力を向上していきましょう。第一線で働く現場の実践報告を参考に共に何ができるかを考えます。

報告者：衛藤 晃さん(神戸市垂水福祉事務所) 大和田 佳世さん(横浜市港北福祉事務所)
三橋 淳子さん(みつはし精神保健福祉士事務所) 精神科ソーシャルワーカー

【分科会10】 扶養・自動車 15:30-17:30

zoom
ウェビナー

「生活保護における扶養照会、自動車使用のあり方」

昨年度より、保護の申請者が扶養照会を拒む場合は「扶養が期待できない場合に該当しないか」を慎重に検討するように別冊問答集が改正されました。一方で、自動車の保有を認められた障害者などが買物等の日常生活で自動車を使用することを制限するかのような事務連絡が出されています。これらの問題を検討します。

講師：林 直久さん(京都市中京福祉事務所) 太田 伸二さん(弁護士・元ケースワーカー)

11月6日(日)

【分科会11】 貧困と自殺問題 10:00-12:00

zoom
ウェビナー

「自殺の危機との向き合い方」～生活保護ケースワーカーのための知識と心構え、対処法～

自殺は、一時と比べて減っていると言われてはいますが、コロナ禍で、特に女性の自殺が増加傾向を見せており、自殺の危機に直面している人が生活保護にも増えています。コロナ禍での自殺の特徴等を学ぶとともに、自殺の兆しなどがあつたときの対応方法、自殺に遭遇した場合のケースワーカーとしての心構え、遺族や利用者の支援あり方などを考えます。

講師：木藤孝祐さん(福岡県社会福祉士会・元ケースワーカー) 助言者：前野有佳里さん(九州大学)

【分科会12】 ワークショップ 10:00-12:00

zoom
ミーティング

「**限定・先着** ケースワーカーのための振り返りワークショップ」～これからのよりよい実践のために～

全国のケースワーカー同士がつながりながら、日々の業務を振り返り、よりよい実践につながるたくさんのヒントをお互いに見いだし、参加型の分科会です。

現役ケースワーカー限定(先着50名)でZoomの「ブレイクアウトセッション」を用いて参加者同士の交流をします。新保・前澤が「ともに考える人」として、これからの考えるための水先案内人になります。ぜひ、リラックスしながらご参加ください。

ファシリテーター(ともに考える人)：新保美香さん(明治学院大学) 前澤友紀さん(大阪府大阪狭山市)

【分科会13】 福祉事務所 13:00-15:30

zoom
ウェビナー

「ケースワーカーを支える福祉事務所運営」

より良い生活保護行政を実施していくには、ケースワーカーが良いパフォーマンスを発揮できる環境や組織体制が不可欠です。しかし、ケースワーカーの充足率の低さや不十分な育成体制など、ケースワーカーの力ではどうしようもない状況があります。これは福祉事務所の要である査察指導員にとっても同様の課題と言えます。査察指導員、所長、都道府県本庁に求められる役割について、報告を交えながら考えます。

助言者：今井 伸さん(十文字学園女子大学) 報告者：査察指導員、福祉事務所長、本庁職員を予定

【分科会14】 ひきこもり支援 13:00-15:00

zoom
ウェビナー

「ひきこもりの支援とその理解」～信じて待つ、でも「待つだけ」にしないために～

ひきこもり支援に特効薬はなく、10代から「8050問題」まで幅広い課題が問題となっています。また、ひきこもりは経済困窮によるのみ生じるものではありませんが、その支援のあり方に苦慮している生活保護担当職員の方も多いのではないのでしょうか。

ひきこもりや若者支援に多くの実績を持つNPO職員と福祉行政のベテランケースワーカーをお招きし、経済困窮を抱えたひきこもり・若年層への支援のあり方について考えます。

報告者：河野久忠さん(特定非営利活動法人青少年自立援助センター) 衛藤晃さん(神戸市垂水福祉事務所)
コーディネーター：横田敏さん(板橋区板橋福祉事務所)

【分科会15】 就労支援 15:30-17:30

zoom
ウェビナー

「目的から考える就労支援」～福祉事務所における就労支援とは～

「支援を拒否する人」「働く意欲がない人」「働くことに不安がある人」「就労阻害要因がある人」「仕事が続かない人」などさまざまな対象者にみなさんどのように支援していますか。就労支援の目的や、一般の就労支援との違いを考えながら、実践報告と意見交換を通して一緒に考えましょう。

助言者：池谷 秀登さん(立正大学) 報告者：ケースワーカー、査察指導員を予定

【分科会16】 自治体間格差 15:30-17:30

zoom
ウェビナー

「生活保護の自治体間格差」～「生活保護情報グループ」の活動～

生活保護の自治体間格差があることは以前から指摘されていますが、「生活保護情報グループ」では生活保護の自治体間格差の見える化を行ってきました。「生活保護情報グループ」とは研究者、ケースワーカー、生活保護担当の経験者らから構成されている自主的研究グループです。本分科会では、生活保護担当者が実際に関わっている「生活保護情報グループ」が行っているソーシャルアクションを紹介します。

コーディネーター：桜井 啓太さん(立命館大学) 報告者：生活保護情報グループ

参加費・支払方法・キャンセル

参加費

一般価格	会員価格	学生価格
10,000 円	5,000 円	5,000 円

支払方法

クレジットカード払い または 銀行振込（振込手数料は参加者でご負担ください）

※公費払いをご希望の自治体担当者は事務局までお問い合わせください

キャンセル

決済後のキャンセル・返金は原則できません

全国公的扶助研究会への入会をセミナー参加申込に合わせてご検討下さい

・全国公的扶助研究会未入会の方

会員年会費 6,000 円（年間 4 冊の機関誌購読料 3,200 円含む）のお支払いで、セミナー参加費が一般価格から会員価格 5,000 円となります（**年会費 6,000 円+参加費 5,000 円=合計 11,000 円**）。

・機関誌「公的扶助研究」を定期購読されている方

機関誌年間購読料に **2,800 円** を足すことで、全国公的扶助研究会の会員となり、セミナー参加費が一般価格から会員価格となります。

申込方法

第 54 回公的扶助研究全国セミナー参加登録フォームからお申し込みください

⇒ https://convention.kijima-p.co.jp/kofuken54_join/

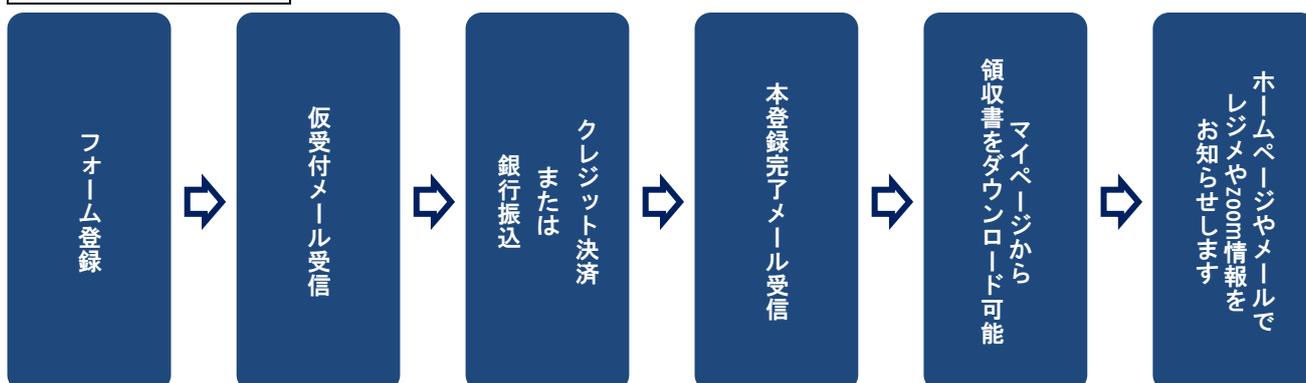
下記ウェブサイトからも参加登録フォームへアクセスできます。

- ・全国公的扶助研究会ホームページ
- ・公的扶助研究会フェイスブック



参加登録フォーム
QRコード

参加登録の流れ



レジメのダウンロード方法や Zoom 情報は、用意ができ次第、参加者へお知らせします

レジメ・資料・アーカイブ配信

レジメ・資料

各企画ごとにレジメ・資料を作成し、web上に限定公開します（PDFファイル）。
開催1週間前を目途にダウンロード方法をお知らせします。各自、ダウンロードしてください。
※レジメ・資料の無断複製・共用は禁止します

アーカイブ

すべての企画のアーカイブを期間限定・参加者限定で配信します（ディスカッションやグループワークなど一部除きます）。セミナー終了後、準備が整い次第、視聴方法をお知らせします。
※アーカイブは参加者のみ視聴することができます
※アーカイブの録画・録音は禁止します

全国公的扶助研究会の活動について

全国公的扶助研究会は、生活保護ケースワーカーや研究者のみならず、生活困窮者自立支援、高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉、地域福祉など、公・民間問わずさまざまな現場で活躍している会員が所属し、日々活動をしています。具体的には、

- 全国セミナー、各地（関東、関西、九州・沖縄、東海など）ブロックセミナーなどの研修開催
- 書籍・ブックレット・ガイドブックなどの出版活動
- メーリングリストを活用した会員同士の情報交換
- 他団体とのイベントの共催、講師派遣

を活動の柱としています。

全国セミナーは例年500名を超えるご参加をいただき、多数の分科会や講座などの企画を開催し、新たな学びの場としてはもちろん、より良い公的扶助を志す全国の仲間との出会いの場としても毎年好評をいただいています。毎年全国さまざまな場所で開催し、新たな公的扶助研究の芽を各地に育てていくことに取り組んでいます。

全国公的扶助研究会は、上記のような取り組みを一緒に担ってくれる仲間を募集中です。やり甲斐、達成感が感じられるだけでなく、第一線で働く仲間たちにも数多く出会えます。

入会申込は全国公的扶助研究会のホームページからできます！

会員年会費 6,000 円（年間4冊の機関紙購読料を含む）

会員になると全国セミナー参加費割引
機関誌もついてきます！

機関誌『季刊 公的扶助研究』

年間購読料 3,200 円
（年間4冊、送料含む）

全国公的扶助研究会では、公的扶助の現場の最新情報を解説し、今現場で何が起きているのか、法制度の状況はどうなっているのか、公的扶助における援助技術のあり方、等を広く読者の皆さんと共有するため機関誌『季刊 公的扶助研究』を年に4回（1、4、7、10月）発行しています。

【過去の特集テーマ】

- 「利用者とともにあるために」 「福岡と各地を結んで ～全国セミナーが問いかけたもの～」
- 「コロナ禍で問われる公の役割」 「新型コロナ下における女性・滞日外国人の生活困窮」
- 「所得格差は健康の格差へ」 「生活困窮と就学支援の現状」

現場から手づくりの機関誌、ぜひ手にとってお読みいただきたいと思います。

お問い合わせは全国公的扶助研究会 (<https://www.kofuken.com/>)

または出版社の萌文社 (<http://www.hobunsysa.com/magazine/koutekifujio/>) まで！



全国公的扶助研究会
facebook

全国公的扶助研究会
ホームページ



オンラインセミナー参加にあたっての注意事項

1. 参加者に必要な利用設備環境

参加者自身による環境の整備が必要になります。参加前に以下の環境を確保してください。

(1) インターネット接続環境

安定したインターネット回線をご用意ください。有線 LAN ケーブルの使用を推奨します（最低でも Wi-Fi 接続）。携帯電話会社の回線（パケット通信）でも参加は可能ですが、データ使用量が大きくなります。参加にかかるデータ通信料は参加者負担となりますので、インターネット回線やお使いの端末の契約内容にご確認ください。

(2) インターネットに接続できる機器

インターネットに接続できるパソコン、タブレット、スマホ等で参加が可能です。パソコンからの参加を推奨します。

(3) 音声・映像機器

周囲の雑音などを軽減するため、イヤホンの使用を推奨します。また、参加者側のマイクとカメラを使用したグループワーク（ブレイクアウトセッション）を実施する企画もあります。パソコン等の端末とあわせてご準備ください。イヤホンとマイクが一体になったイヤホン付きマイク（ヘッドセット）が便利です。

(4) ビデオ会議システム「Zoom」

本セミナーでは、ビデオ会議システム「Zoom ミーティング／ウェビナー」を使用します。事前に「Zoom」アプリを使用予定の機器にダウンロード／インストールしてください。ダウンロード／インストールは無料でできます。

2. 通信不具合などによるリスクについて

オンラインセミナーは、インターネット環境があれば場所を問わず参加できる便利さがある反面、通信状況やその他の理由により、音声途切れる、画像が固まる、つながらない、などのトラブルが起こる可能性がありますので、ご理解の上、ご参加いただきますようお願いいたします。

3. 参加にあたっての禁止行為について

- おひとりの申込で複数人が参加・視聴すること（申込者本人のみ参加・視聴可能）
- 提供された Zoom のミーティング ID やパスワードを他人と共有すること
- セミナー内容の画面撮影・録音・録画をすること
- チャット機能等で他者を誹謗中傷すること、進行を妨げる行為をすること
- 他の参加者情報や配布資料 PDF を無断複製したり共用すること

問い合わせ先・その他

セミナーに関する問い合わせ先

全国公的扶助研究会事務局

⇒ 電子メール zenkoku_koufukenn@yahoo.co.jp

⇒ FAX 050-3730-2116

- 件名は「全国セミナーについて」と明記して下さい。
- 電話やFAXによる回答を希望される場合はその旨を明記し、連絡先の番号を付記して下さい。
- 参加費の公費払いをご希望の自治体担当者は参加申込の前にご連絡ください。
- 参加登録後に一般参加から会員参加へ変更する場合はご連絡ください。
- 回答は、後日になる場合があります。

その他

新型コロナウイルス感染拡大など不測の事態により、予定していた内容で企画が行えなくなる場合があります。その際は、速やかにホームページ・Facebook でお知らせします。